

じんめんつきこがたぶかほちどき
「人面付小形深鉢土器」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（考古資料） 平成 10 年 3 月 26 日
- 所 在 地 千曲市大字羽尾 247 番地 1 さらしなの里歴史資料館
- 所 有 者 千曲市教育委員会
- 概 要 縄文土器 寸法：器高 11.9cm
- 製作時代 縄文時代晩期前半
- 公 開 さらしなの里歴史資料館に展示

この土器は、昭和 62・63 年県営圃場整備に伴い円光房遺跡の発掘調査が実施され、直径約 7 m の範囲に多量の縄文時代晩期の土器類が集中して検出された第 1 号土器集積址中央部より出土したものです。沈線間に縄文が施された縄文帯と無文帯の直線・曲線的な組み合わせによって文様（地文）が構成されていて、出土状況から縄文時代晩期前半のものと推定されます。先端が曲がった長い鼻の人面があらわされ、器高 11.9 cm で小形の丸底器形をしています。色調は全体的に黒褐色で、約半分が出土し復元しました。

縄文時代全般を通じて、土器に具象的な文様が表現されることはあまりなく、特に縄文時代晩期の土器に人面が表現されたものは非常に少なく、長野県下でも数例が確認されるのみです。また、器形もカップ型の丸底をしており、日常使用されるものとは異なっています。このことから、この土器は何か特別な目的によって製作されたことがうかがわれます。

